

令和4年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立波野小学校（外 11校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

*取組の期間

2030年4月まで

2. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実が我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

3. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

4. 実施の効果、課題および方向性

(1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

本校においては、外国語に慣れ親しみ、進んで外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られる。第1学年の児童について、95.8%が外国語活動の時間は「楽しい」「どちらかという楽しい」と答え、外国語活動を楽しんでいる。

また、第2学年では97%の児童が、外国語活動の時間が「楽しい」「どちらかという楽しい」と答えている。

多くの児童が英語の学習を楽しみにしており、楽しむことで、音やリズムが自然に身に付けている。また、休み時間などに、児童がALTに英語で挨拶をしたり、英語で会話をしたりする場面を多く見ることができると、英語に慣れ親しんでいる。

一方、1年生・2年生ともに、数パーセントの児童が「どちらかという楽しくない」と答えているため、苦手意識をもたせない授業の工夫・改善が必要である。

6年生が受検したGTEC Juniorでは、昨年度に比べて全体のジュニアグレード4を占める割合が43.9%から54.0%へ上昇した。特に「読む力」においては29.8%から38.1%、「書く力」においては、33.3%から54.0%へ向上した。

また、6年生が受検した英検ESGでは、約半数の児童が501～550のスコアレンジに入った。

以上のことから、本校においては、第1学年から外国語活動を実施することにより、着実に力が付いていると考える。

一方で、音と文字の対応について苦手意識をもっている児童もいるため、音と文字の対応についての指導の工夫・改善が必要である。

(2) 課題の改善のための取組の方向性

本校では、第1学年から外国語活動に取り組むことで、外国語に慣れ親しみ、外国語活動が「楽しい」と感じている児童が多い。また、進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られる。

しかし、学年が上がるにつれて、外国語活動を楽しめることのできない児童の割合が増えている。特に、音と文字の関係についての理解が不十分なため、英語を読んだり書いたりすることに、苦手意識が生まれていると考える。児童にとって身近で興味があるもののつづりが添えられている絵カードを使った言語活動などを行い、音と文字の対応への気付きを促す活動を増やしていきたい。また、発達段階や文字と発音についての習熟度に応じて、フォニックスの指導を取り入れ、楽しみながら自信をもって英語を読んだり書いたりできるように指導の工夫と改善を図りたい。